



# みみん

【題字】谷川俊太郎さん



せんだい・みやぎNPOセンターニュースレター“みんみん”は、あらゆる組織が社会課題解決をキーワードに出会うきっかけづくりと、活動を発信をすることから、新しい風を起こしていきたいと願っています。



3月21日、JR多賀城駅前に新図書館がオープン。運営はレンタル大手TSUTAYAを展開するカルチュア・コンビニエンス・クラブが指定管理者。1300年の歴史をもつ史跡のまちの変化に期待をこめて、まちづくりの展望等についてお話いただきました。

## 目次

- P 2 ～ 3 みんみん対談  
「世界絵本フェスタ」新たなまちづくりの第一歩は、  
誰もが親しみやすい絵本から」  
小野史典さん（多賀城市総務部地域コミュニティ課 課長）  
中津涼子（多賀城市市民活動サポートセンター センター長）
- P 4 ～ 6 せんだい・みやぎNPOセンター実施事業のご紹介
- P 6 …… 新スタッフ自己紹介
- P 7 …… ライブラリー 特定非営利活動法人アートワークショップすんぷちよ
- P 8 …… 新規会員・継続会員、ご寄附、編集後記、お知らせ、連絡先等

# 「世界絵本フェスタ～新たなまちづくりの第一歩は、誰もが親しみやすい絵本から」

今回の対談は、多賀城市役所の地域コミュニティ課 課長 小野史典さんをゲストにお迎えしました。

今春3月21日、多賀城市立図書館が多賀城駅前に移転、開館します。多賀城市では、この新図書館を核にした文化交流拠点づくりに向けて、「新しいまちづくり挑戦プロジェクト」に着手しているとのこと。図書館を核とした新たなまちづくりについて、当センタースタッフ 中津(多賀城市市民活動サポートセンター センター長)が、お話を伺いました。

中津:どんな図書館ができるのか、図書館を通じてどんなまちになっていくのか、多賀城市市民活動サポートセンター(以下、多賀SC)や周辺の施設がどのように関わっていくのか、その辺りをお伺いしたいと思います。さっそくですが一言でいうと、どんな図書館ができますか。

小野:一言でいえば、新しい発見ができる図書館であつたらいいなと思っています。文化の象徴でもあり、深い知の財産が蓄えられた本を通じて新たな何かに出会う、図書館はそうした発見へのアプローチの場になって欲しいと思います。

調べたり、探しものをしたりするのは、スマホのほうが手っ取り早くできてしまいますし、本を読むという環境が多様化していることを考えると、図書館も現状のまま留まることなく、時代に合わせて進化しなくてはならないと思うのですね。

新図書館は、大勢の市民が本を求めて集い、本と出会い、本がつなぐ人との出会いの中で交流し、一緒に学びあうことで自己実現に結びつく何かを発見することができる。そんな図書館であつて欲しいと思います。ですので、新しい図書館のもう一つの顔は、出会いと交流の場ということになるのでしょうか。

中津:小野課長はどのような位置付けで関わっているのですか。

小野:新図書館をコミュニティ創出の場に、という側面から入っていくのが私の仕事です。

今年の3月11日、震災後5年が経ちます。東日本大震災によって、市内で188人の尊い命が犠牲となり、市域の3分の1が浸水するなど大変大きな被害をこうむりました。5年が経過した現在、復旧復興が進み、一見するとまちなみは元通りに戻ったか

なと思われるかもしれませんが、被災された方々の心の傷はまだ癒えていません。多賀城市では復興計画や減災都市宣言に基づき、ビルド・バック・ベター

(注釈)を目指していますが、これはハードインフラの整備により達成するものではなく、やっぱり、震災前よりもより良い地域コミュニティが形成されることで達成されるものなのだと思うのです。

より良い地域コミュニティが形成されるためには、より良いコミュニケーションが必要です。より良いコミュニケーションのためには、感動を共有したり、互いの価値観を認め合ったりすることが必要ですが、やっぱり直に出会い、顔を合わせて交流することが肝心です。新図書館をコミュニティ創出の場として捉えているのは、本と人が出会い、本と人がつながることで人と人がつながり、そして出会った人たちが、「自分たちが暮らす地域や日々の生活のこと」や「こうなつたらいいなという未来のこと」をおしゃべりしてつながっていくことが、誰でも、日常的に自然にできるのではと思っているからです。イタリアで長年司書を務められたアンニョリさんの著書『知の広場』に、屋根のある広場のような図書館には自然と人が集まってくるとありますが、新図書館がそういう場になるように側面支援をしていくつもりです。一方で、このようなコミュニティ創出の場は、まちの中心部に一つだけあつたらよいというわけではありません。地域自治活動の基盤でもある、町内会や自治会ごとにあつてこそ、真価を発揮するはずで

中津:多賀SCの出番が見え隠れしているように思います。

小野:そうですね。多賀SCにはこれまでも、市民力、自治力向上のために、様々なことに取り組んでいただいています。その経験を活かして、新たなカタチのコミュニティ創出の場づくりを積極的にサポートしていただきたいと思います。また、新図書館の誕生を契機に、新たな市民活動の実践者をどんどん増やして欲しいと思います。

というのも、多賀城市では、新図書館を核にした文化交流拠点づくりという構想があるのです。新図書館を中心に、優れた音響と評価の高い音楽ホールを備えた文化センター、そして、その先の小高い丘の上にある多賀SC、さらに多賀城市のアイデンティティともいえる特別史跡多賀城跡や東北歴史博物館といった文化資本を、点、線、面で結び、新しき文化と伝統的な文化を融合させることによって、付加価値を編みだしていこうというもの



小野 史典さん  
多賀城市総務部  
地域コミュニティ課課長

です。

多賀城市のホームページに、松尾芭蕉の俳諧理念として有名な「不易流行」という言葉を掲げていますが、この構想は、まさにこれを体現する新たなまちづくり政策です。これによって、市民が自分達のチカラを奮い起こして、まちをより良くしたいという市民活動を実践できたら、これは本当に素晴らしいことと思っています。でも「自分たちの力でまちを変えられる」ということをサポートする仕掛けや仕組みがないと、志や思いは育まれても、カタチにならないかもしれません。

新図書館から多賀SCは歩いて5分、一直線に行ける場所なので、新図書館と多賀SCがきちんとつながることで、それは叶うのではと思っています。

**中津:**地域づくりに関わったことがない方へのアプローチの難しさは、多賀SCを運営していて感じるところがあります。普段の暮らしの中や、学校や職場と家との往復だけでは、地域の魅力や課題に気付くのはなかなか難しいところがあると思います。だからこそ、多賀SCはイベントやさまざまな媒体での発信等を仕掛け、気づききっかけを提供することにここ数年力を入れてきました。今後は興味を持つだけで終らせずに、学びを発展させて、地域のための活動につなげていく後押しをする役割がますます重要になっていくと考えています。

ところで、市立図書館基本計画の奥付に記載されている資料ですが、どの辺りが参考になりましたか。

**小野:**『世界で最も美しい書店』に、読み終わった本を置いていき、その価値に見合った分だけ、店から本を持ち帰る、交換本屋が紹介されているんですね。イギリスの廃駅を再活用した本屋です。誰もが利用できる環境にあつて自由度は高いのに、ごみ一つ落ちていないし、整然と本が並んでいます。品格を保つという秩序があるからです。こういう市民文化が、本を通じてできるんだと、ちょっと感動しました。

**中津:**そこを訪れる人の等価交換によって、蔵書が成り立っている訳ですね。

「場をみんなで作る」ということは、例えばフリースペースで、すごく騒いでいる人がいたら、スタッフに「注意をお願いします」ということではなくて、利用されている人たちが、お互いに声をかけるところから会話が生まれて、利用しやすい場になっていくというのが、公共の施設としては理想かなと思います。図書館も使う人によって場が創られていくと思います。お子さん連れのご家族の利用も多くなるとはと思いますが、子どもが走り回っても、それをみんなで認め合える場になるでしょうか。

**小野:**新図書館は広場のようにコミュニケーションができる場であつて欲しいので、本を片手におしゃべりを、ということもあつて欲しいし、その中で子どもの笑い声や、本に囲まれた場で楽しくてしょうがないから走ってみた、ということがあつてもよい

と私自身は思います。そういうことを容認できるような場になるかどうかということですが、新図書館を利用される皆さんが、子ども達の笑い声がある図書館っていいなと思って、そういう雰囲気を作ってってもらえるといいですね。

**中津:**地域でも子どもがにぎやかに遊んでいる環境について、保育所などに苦情が来るというニュースを見たことがありますが、子どもが元気に遊んでいる声が溢れる地域の方が良いよねとか、障がい者や高齢者も暮らしやすい地域、みんなに居場所がある地域がいいよね、と多様性を認め合う風土が、図書館の中から地域へとひろがる可能性もありますね。

**小野:**そういう広がりが出てくるといいですね。

**中津:**書店や図書館で本を探している時、その隣の本、それまで知らなかった作家に出会うという面白さがありますよね。最近お読みの本または映像で、お薦めは何かありますか。

**小野:**最近、市長が「海難1890」を見たのだそうです。この映画は、トルコの難破船を助けるというもので、和歌山県の串本のドキュメンタリーです。その村の住民は、命がけで危険を顧みず生存者を助けたのです。和歌山は昔から熊野古道の巡礼者を受け入れてきたので、人の面倒を見るということが特別のことではなく、そういう市民文化が根付き、人情味に溢れる人が多いのだそうです。目の前に困っている人がいたので、きっと黙っていられなかったのだと思うのです。市民文化にはそういうチカラがあるのだと感動しました。

最後にイベント案内をさせていただきます。

図書館を核にした新たなまちづくりへの口火を切るイベント「2016多賀城市世界絵本フェスタ」を、新図書館の開館に合わせて3月19日～30日に開催します。見所は、世界70カ国、500冊以上の絵本が揃う世界絵本展と、フェスタ最終日の30日に行う多賀城版オペラ「魔法の笛」です。

**中津:**絵本フェスタがキックオフのイベントになるのですね。

**小野:**この機会に、多賀城の新たなまちびらきのイベントを楽しんでいただきたいと思います。新図書館は、壁一面に配架された本が圧倒的な存在感を示します。見る者の知的好奇心を湧き起こすそんな空間を体験できる場はそうそうありません。

ぜひ、多賀城にお立ち寄りください。

(注釈) 創造的復興／被災前よりもいいものを創り上げる



**中津 涼子**  
多賀城市市民活動サポートセンターセンター長  
多賀城市市民活動サポートセンター担当部長

(記録・編集 遊佐さゆり)



## 完結!!加藤哲夫氏資料企画展 アーカイブキャラバンの旅 (加藤哲夫氏の資料を活用してのNPO運営支援事業)

### ■アーカイブキャラバン2015の完結

2015年5月の岡山開催を皮切りに、8月に京都、11月に東京での企画展を開催し、12月の福島開催をもって、アーカイブキャラバンの全工程が終了しました。各地の中間支援組織と連携しながら進めたこの企画、私たちにとっては、被災地の現状を発信するとともに、各地の先進的な事例を学ばせていただく良い機会となりました。加藤資料を用いてのワークショッププログラムも、改良を重ねていきました。

### ■刊行・蝸牛評伝II

アーカイブキャラバンで各地を回りながら、企画展を開催するとともに取材も実施しています。そこでの内容は、2016年3月刊行予定の『蝸牛評伝・加藤哲夫の遺したものと市民社会イノベーションII』のなかで報告させていただきます。第1部「加藤哲夫をふりかえる」では、京都と東京で開催されたシンポジウムの内容を掲載します。第2部「加藤哲夫の足跡をたずねて」では、岡山・倉敷・京都でのヒアリング内容を取り上げます。現在作成中ですが、現在の復興活動、これからのNPO活動にとって示唆に富んだ内容になっています。

### ■加藤資料デジタルアーカイブサイトの完成

アーカイブキャラバンの旅を続けるとともに、加藤資料の整理も並行して進め、2016年3月末に、1,500点の資料の掲載が完了し、WEBサイトがいよいよ完成します。これがどのように活用されているのか、現在集計中です。ここ2ヶ月間の利用状況を示したのが次の表です。現在仮サイトにて運営中ですが、アーカイブキャラバンでまわった地域でのアクセスが確認されることに加えて、全国的に利用が広がっていることがわかります。

セッション数	都道府県名
50以上	宮城県
40~50	東京都
30~40	神奈川県
20~30	大阪府
10~20	愛知県、埼玉県、兵庫県
1~10	福島県、千葉県、佐賀県、福岡県、青森県、岡山県、沖縄県、鹿児島県、北海道、秋田県、群馬県、岐阜県、三重県、滋賀県、鳥取県、広島県、徳島県

ちなみに最もアクセス数の多い資料、ベスト3は以下の通りです。

	ページビュー数
1	「『市民の日本語』の次の本としての『市民のマネジメント』」
2	「NPOマネジメント実践講座—NPO7つ道具の使い方—」(2000年2月)
3	「NPO実践講座」『市民の知恵の新しい器としてのNPO』『Transport』(2001年1月)

このデジタルアーカイブサイトが積極的に活用されることを願っております。 <http://www.minmin.org/kto/> (佐々木秀之)

## 「未来へ向かって 羽ばたきのとき」

—今年も5名の若者が「卒業」します!—

### ■今年度プログラムも無事終了

昨年7月にスタートした、今年度の「住友商事 東日本再生コースチャレンジ・プログラム-インターンシップ奨励プログラム-2015」は、この3月末をもって修了を迎えます。今年度の宮城県受け入れ団体は、(特活)アスイク、(認定特活)Switch、(認定特活)冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク、(認定特活)杜の伝言板ゆるる、当センターの5団体で、各団体1名ずつの若者をインターンとして迎え入れておりました。

インターンと受け入れ団体はもちろん、主催の住友商事株式会社や、企画・運営協力の特活)市民社会創造ファンドなど、関係者一同が初めて顔をあわせたのは、昨年6月末に開催された事前研修・入校式。直後からそれぞれのカリキュラムにそった活動が始まり、11月には中間報告会が催されました。ここでは、活動を振り返り、折り返し地点を過ぎた残り時間をどのように過ごすか、後半は何にチャレンジしていきたいかなどがインターンから発表されましたが、初心を思い出し、新たな気持ちで活動に向かうとする姿が頼もしく見えました。

そして、きたる3月19日(土)には、本事業の締めとなる修了報告会が開催されます。ここでは、この9ヶ月間の活動を通して各インターンが感じたこと、気付いたこと、学んだことなどがまとめられ、彼らの集大成の場となります。どなたでもおいで頂けますので、関心がある方はぜひ足をお運びください。(p8参照)

### ■プログラムの主役

本事業の主役はインターンということには違ひありませんが、もう一つの主役をあげるとすれば、先輩のインターンOBとOGを忘れるわけにはいきません。自分が「卒業」した後も、各報告会など機会あるごとに顔を出してメッセージを運んでくれたり、現インターンが活動中に抱く疑問や不安への確かなアドバイスをしてくれたり、経験者ならではの力強い協力を提供してくれています。また、インターンを包むように見守り、ときには温かくも厳しい指導をしてくださるメンターやスーパーバイザーも陰の主役といっていると思います。毎年、9ヶ月の後に大きく成長しているインターンの姿をみると、見えない場で努力や工夫、ときには苦悩を続けてくださる団体の方々の力を痛切に感じざるを得ません。

現在、今年7月にスタートする次年度の準備が進んでいます。5年計画で始まった本事業の最終年度となりますので、新しい自分を見出したい方は、この機会をお見逃しなく、ぜひ応募してみてください。

(小川真美)

## 「宮城県震災復興担い手NPO等支援事業」

今年度、宮城県の震災復興担い手NPO等支援事業を受託し、気仙沼、石巻、仙台、仙南の4地域で、復興を担うNPO等を対象に、組織基盤強化とネットワーク促進を目的としたセミナー、ワークショップ、ラウンドテーブル、調査を展開しています。

昨年10月には、復興を担うNPO等を対象に上記の4地域で「3年後の未来を創りだすNPO向けセミナー＆ワークショップ」を実施しました。セミナーでは、中長期計画や収支計画を持つ重要性、意思決定機関としての理事会運営等について解説し、ワークショップでは、地域の現状の課題を洗い出し、3年後の理想の未来とそこで自組織が果たす役割について考え、参加団体が中長期計画を策定する準備を行いました。気仙沼、石巻、仙南の各地域では、地

域による復興の進み具合の隔たり、若者の流出など、共通する課題も見えてきました。仙台では、課題が産業、格差、福祉、子育てなどテーマに特化した課題が特徴です。

ラウンドテーブルは今年2月に実施し、10月のワークショップで各参加者から挙げられた課題と未来像を題材に、その解決に向けた取り組みと参加団体が自ら果たす役割について、さらに話し合う場を設けました。併せて各地域の行政、企業、NPO等を対象に、復興に係るネットワークについてのアンケート調査も実施中です。これらの結果は年度末に報告書として公開し、各地域へと還元していきます。

(太田貴)

## 【みんなpresents まち・むすび助成金】第2期助成団体決定

2015年12月13日(日)、第2期の助成団体を決定する公開審査会を仙台市市民活動サポートセンターで開催致しました。開場時間の13時には、書類審査を通過した11団体が、気仙沼～岩沼までの各地から詰掛けていました。

今回も独創的なプレゼンが多く、特に寸劇や綱引きの実演には拍手喝采が送られていました。片や、各団体の募金箱コーナーでは、「ここは活動が大変そうだから寄付していこう」や「今度、一緒に活動しましょう」などの交流が見られ、協働の輪が広がる印象を強くしました。

また審査員には、当センターから代表理事の大滝精一、仙台市職員の天野美紀さん、河北新報社の大泉大介さん、昨年に続き、東北学院大学の学生、大野加南恵さん、多賀城市高橋東一区区

長の金子昭夫さんの5名にご登壇頂きました。

厳正な審査の末、審査員から「まち・むすび助成金は『金も出すが口も出す』という、伴走型支援が特徴である」という論評を頂き、一部の団体には減額をした上で、全団体を採択する事になりました。

ところで、本公開審査会では、第1期の助成団体にも活動紹介をして頂きましたが、短い時間をもとめず、簡潔な表現で報告する様に、審査員からは「助成した甲斐があった」と絶賛を博しており、継続的な活動機会が各団体の実力向上に資することを実感しました。引き続き、第1期、第2期の合計21団体が協働の種を芽吹かせ、地域課題の解決まで結実できるよう伴走型支援を続けて参ります。

(高荷聡子)

## 多賀城市地方創生事業 コミュニティカフェ & 創業支援事業の展開

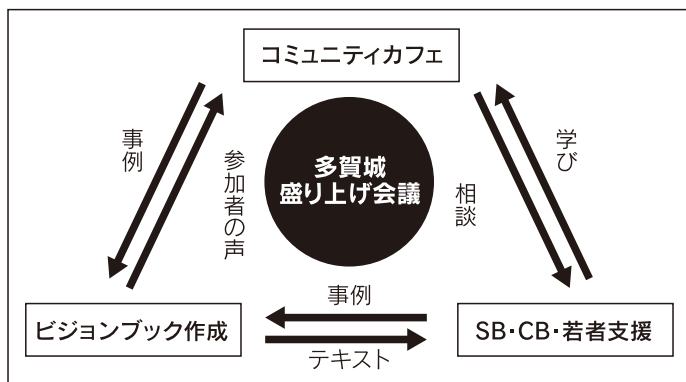
2015年度に宮城県多賀城市が展開している地方創生事業の一環として、当センターが委託を受け開催してきました「多賀城コミュニティカフェ」と「若者創業支援事業」の大部分が終了しましたので報告いたします。

私たちは図のようなスキーム(簡略図)で、毎月開催のコミュニティカフェ、コミュニティビジネス相談会、ビジョンブックの作成を実施しています。

ここに、多賀城市市民活動サポートセンターが主催する「TAGAJI Future Labo ～多賀城未来実験室～」という人材育成の連続講座を組み合わせ、若者のチャレンジを支援してまいりました。

コミュニティカフェは、2015年5月から11月の第1弾と同12月から2016年1月にかけての第2弾が行われ、第2弾では、絵本作家の西野亮廣氏、「高校生レストラン」のモデルである岸川政之氏、多賀城とゆかりのある奈良県出身の映画監督河瀬直美氏をお

招きして、若者を対象とするトークライブを開催いたしました。これらのまとめとして、(仮称)多賀城若者ビジョンブック「TAGAYASU」を刊行します。新しくなった多賀城市立図書館に配架予定です。



(桃生和成、高橋結、佐々木秀之)

# 実施事業の紹介

## 仙台市市民活動サポートセンター

## ■「はじめての〇〇講座シリーズ」～はじめてのミニイベント～

2015年12月5日(土)、市民活動初心者に向けた講座「はじめてのミニイベント」を開催しました。「はじめての〇〇講座」は、思いを実現する上で身に着けておきたいノウハウを基礎から学べるシリーズです。企画のアイデアを持つ方や、活動をしているが運営や広報に不安を感じている方など22名の参加がありました。前半を「企画・運営編」、後半は「広報編」として実施し、講師はそれぞれサポセンのスタッフが担当しました。

「企画・運営編」では、企画書を作るため、アイデアや考えを整理し明文化すること、また運営するにあたってのスケジュール作成や事務局の役割をレクチャーしました。「広報編」では、ターゲットに合わせて伝えたいことを整理し、形にすること。様々なツールの中から、チラシ作りを例とし広報のタスク管理、他のツールとの組み合わせ方などのレクチャー。そして、これからのチラシ作りに向け、レイアウト案を作る個人ワークを実施しました。企画がより伝わるよう情報を整理し、ちょっとした工夫でグッと良くなるコツもお伝えしました。

受講者の反応は、思いをカタチにすることでやりたいことが明確になった、課題が見えてきたなど様々でした。今後の活動への結び付きが期待されます。

詳しくはこちら↓

仙台サポセン ブログ

検索

(仙台市市民活動サポートセンター 小野真璃子)

## 多賀城市市民活動サポートセンター

## ■参加者の想いが地域の未来を照らす!!

昨年(2015年)の7月にスタートした【TAGAJO Future Labo～多賀城未来実験室～】は2016年1月30日(土)に受講者による発表会を開催し、全日程が終了しました。『まちの未来を自由に描けるまち多賀城』と位置付けをし、受講者の「何かしたい」という想いや考えを形にしていくと銘打って始めた全5回の本講座は、13名の受講者中6名の方々が自分自身の想いに向き合い、発表まで昇華しました。内容は、自身の体験から「認知症カフェを地域で立ちあげたい」、これまでの経験を生かし多賀城で「和の文化を用いた地域コミュニティの場を創出する」、自分の持っている手芸のスキルで「ひきこもりの若者が社会とつながるための支援をしたい」などです。

また講座で目指すのは、受講者がそれぞれの想いを整理し活動を起こすプランを考えるまで、と定めていたのですが、想いに共感した受講生同士が期間中に活動をはじめると、スタッフの想定を越えた動きもありました。強い想いを持つ人達が出会い、それを言葉として発する事で生まれる反応はまさに実験室のようでした。

たがさぼでは、今後も『市民の想いで地域の未来を描く場』としての機能も充実し、更なる市民主体の地域づくりを支援していきます!

詳しくはこちら↓

たがさぼPress

検索

(多賀城市市民活動サポートセンター 武内基)

## 本部事務局より

## 臨時総会と第29回評議員会を開催しました。

さる2月11日(木)、当センター臨時総会を仙台市戦災復興記念館会議室にて開催致しました。臨時総会では、第1号議案みやぎ連携復興センターへの寄付について皆さんにお諮りしました。本臨時総会は昨年11月開催の臨時総会から間もないこともあり、会員の皆さんからは法人運営について厳しいご意見を数多く頂戴しました。そのひとつ一つを肝に銘じ、今後の運営に生かしてまいります。

翌週17日(水)には、第29回評議員会を同じく戦災復興記念館で開催致しました。先に開催した2回の臨時総会報告と、今年度上

半年の事業実施状況の報告をし、それらを受けて評議員の皆さんから多角的な視点でご意見を頂きました。こちらについても、昨年来からの法人運営について厳しいご意見を頂きました。

下半期から来年度にかけて、本部事務局の基盤強化と運営体制の見直しを急務とし、かつ認定NPO法人取得に向けて真摯に取り組んで参ります。末筆になりましたが、臨時総会並びに評議員会ご出席の皆さん、お忙しい中ありがとうございました。

(田口博徳)

## 新スタッフ自己紹介

黒川 夕紀(クロカワ ユキ)

勤務先:仙台市市民活動サポートセンター

高校生のときからずめ踊りをしている、青葉祭りでお囃子をしています。仙台育ちですが、就職後東京へ引っ越し、先月まで訪問看護師として勤務し、都内を自転車で行き回っていました。看護師としての経験を活かし、お手伝いが出来ればと思っています。市民活動については慣れないことが多いので、これから頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

仁井田 名月(ニイタ ナツキ)

勤務先:仙台市市民活動サポートセンター

現在、東北学院大学の2年生です。私は、大学で市民活動について学び、実際に市民活動やボランティア活動をしていく中でNPOに関心を持ちました。市民がより良いまちを目指して自ら活動していく姿勢に感銘を受け、私もそのような市民でありたいと思っております。市民活動をされる方々のお役に立てるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



活動やニーズ、「志」でつながろう。

# ライブラリル



毎号「みやぎNPO情報ライブラリー※」登録団体の中から、ひとつをご紹介します。

※NPO・市民活動団体の皆さんから活動に関する情報をお預かりして、地域の市民・企業など社会一般に広く公開・発信する情報発信支援事業です。

NPO法人

今回は

## アートワークショップ すんぷちよ

<http://fields.canpan.info/organization/detail/1524203336>

事務局長 及川多香子さんにお話を伺いました。

### 活動内容

「すんぷちよ」とは、宮城県の方言で「急須」を意味します。「お茶飲みにも人が集まるように、様々な人が集まるあたたかさを提供する団体でありたい」という思いを込めました。集まった様々な人々をつなぐのはアートです。誰にでも



アートを楽しむ権利があり、アートを生み出す力があります。その場やきっかけをつくっていくのが私たちの活動です。すべての人が対象ですが、特に、社会の中で孤立しがちな、障害者、高齢者、子育て中のお母さんたちに場を提供できるよう活動しています。

活動の軸となるのは、アートワークショップと舞台公演です。アートワークショップは、ダンス、美術、演劇などがあります。そこは、教えたり学んだりする場ではなく、あくまでも参加者が主体となり、参加者が自分のなかにあるものを表出していく場となります。「アート」というと特別なものと思う方も多いでしょうが、私たちは、その人が持っている何気ないもの、普段見過ごされているようなものに「アート」の種を発見し、本人も気がつくことを後押しします。

舞台では、ワークショップで表出した種を、「すんぷちよ」で活動するアーティストが作品に仕上げ、上演します。最近のことですが、ワークショップの参加者に、独特のリズムとタイミングで指をパッチンとならす小学生がいました。アーティストはその指パッチンを取り入れて、舞台をつくりました。少年がマイクの前で指をならす。その音にあわせてプロのダンサーが踊り、好評でした。少年にとっても大きな自信になったと思います。

「すんぷちよ」は2008年に任意団体として出発。より多くの人に関われるように2014年11月にNPO法人にしました。現在、10余人のスタッフが、ボランティア体制で携わっています。

### 現在の活動での、注目ポイント

近年目標にしていることは、「多世代、多文化との交流」です。昨年は、これまで公言してきた「誰でもが」ということに手ごたえがあった年でした。今年もこれを目標に、ワークショップと舞台公演をしていきます。様々な世代の人たちが交流できるようなもの、様々な障害を持つ人たちが楽しめるようなものを目指しています。実

際、私たちのワークショップには、車いすの方も、重度の障害者の方も参加しています。とても切れ味のよいダンスをするので、「ダンスのうまいおじさん」と親しまれている人もいます。彼には障害があるのですが、本人も周囲も気になりません。

また、今、「すんぷちよ」で活動するアーティストたちは、JISP(=ジャパンイスラエルサポートプログラム)からアートセラピーを本格的に学んでいます。JISPは、イスラエルや震災後の日本で、子供たちの心のケアを行ってきた団体です。私たちは、この学びをワークショップに取り入れ、ワークショップの質をさらに高めていきます。

### 読者のみなさんへのメッセージ

ぜひ、私たちのワークショップに参加してください。一度足をはこんで、新しい自分を発見して、居心地のよさを体験してください。そして、ワークショップや舞台公演にピンときたら、私たちの活動を口コミで伝えてください。今後の予定は、WEB上、「すんぷちよ」のHPなどに掲示します。私たちを必要としている人たちがいる。しかし、まだ、届いていないというもどかしさも抱えています。自分が行けるようなところがないと思い込んでいる方もいるでしょう。施設をまわって活動の案内をしていたとき、「ここにはそのような場に行く人はいないと思う。」という言葉が返ってきたこともありました。しかし、様々な人たちの機会、可能性を閉じることがあってはいけません。これまでは、宮城県内から北九州市まで、会員がいる所、応援してくれる人がいるところを足がかりに公演してきました。どんな施設があり、どんなところへ行けばよいのか、私たちが気が付いていないこともあると思います。みなさんから、情報、意見を寄せてください。

お問い合わせは

NPO法人

## アートワークショップすんぷちよ

TEL:070-5017-5904

Mail:info@sun-pucho.com

<http://sun-pucho.com/>

### 次号の団体は

アートワークショップ すんぷちよ 及川多香子さんよりご紹介  
認定特定非営利活動法人地星社

社会をよりよくする活動を行っている人や組織を支援し増やしていくことで、私たちひとりひとりによる地域づくり・社会づくりを推進されている団体です。



(市民ライター 宮原淳子)

※市民ライター：仙台市市民活動サポートセンター主催、

「市民ライター講座」受講者

# サポート・ご協力 ありがとうございます

■平成27年度会員(敬称略) 2015年12月16日～2016年2月10日)

(正会員) (特)蔵王のブナと水を守る会

(準会員) 田高禎治

■企業・団体協力(敬称略) 富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

■ご寄付ありがとうございます

4件 ..... 42,500円(2015年12月1日～2016年2月10日)

## 仙台防災未来フォーラム2016

### 市民の防災枠組

～マチノワを創るために～

日時:2016年3月12日(土)

11:00～15:50

会場:仙台国際センター 会議棟 小会議室2

国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組み」を理解し、団体や市民が自分たちの取組みと重ねあわせ、市民の防災枠組みとして持続可能な街を創ることを考える場です。NPO、町内会の活動者に防災・減災についての事例発表と参加者間でダイアログを通し、地域や組織、活動者をつないでいる中間支援の役割を担う組織とセクターを越えた包括的仕組みについて考えます。

## 住友商事

### 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム -インターンシップ奨励プログラム- 2015 修了報告会

2015年7月からの9ヶ月間、宮城県内で5名のインターンたちがNPOでの活動を続けてまいりました。本報告会では、その成果とこれからの展望を発表します。

NPOでの長期インターンシップに関心をお持ちの方であれば、どなたでも参加いただけます。

日時:2016年3月19日(土) 13:00～17:00(予定)

会場:仙台市戦災復興記念館 4F研修室

申込:お名前、ご所属、メールアドレス、電話番号の4点を、以下のメールアドレスまたはファクス宛て送信ください。

(メールアドレス:minmin@minmin.org、ファクス:022-264-1209。件名を「インターンシップ修了報告会参加希望」としてください。)

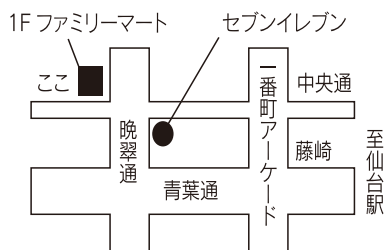
※お席に限りがございますので、事前申込みが必要となります。また、定員に達したところで締切らせていただきます。

## 連絡先

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター  
〒980-0804 仙台市青葉区大町 2-6-27 岡元ビル 7F  
TEL : 022-264-1281 FAX : 022-264-1209  
E-mail : minmin@minmin.org HP : http://www.minmin.org/

## 発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一  
新川達郎  
編集部: 小川真美 遊佐さゆり  
田口博徳  
発行日: 2016年3月1日  
デザイン: 氏家朗



岡元ビル 7F 仙台駅から徒歩 20～25分

## 編 | 集 | 後 | 記 |

昨秋より、柴田町のまちづくり推進センター「ゆる、ぶら」の運営支援を担当している。施設コンセプトが形となり、「ゆる坊」というキャラクターも生まれた。2月末には、これまた新たな人材育成事業の取り組みのひとつ、「ゆるぶランチ」が開催され、まちに希望を持つ人たちが集い、さまざまなアイデアの共有や協働が生まれた。

こうした一つ一つの成果が積み重ねられる背景には、何より担当職員はじめ関係者全員が「ゆる、ぶら」を真剣に考えていることが大きい。担当者としても喜びこの上ない。

(OGAWA)

子ども時代の本は、世界を知ること、楽しむこと、感性を刺激し、想像力を伸ばして、言葉の力を育てる、成長の一助だったと思います。大人になってからの本は、悩みを解決するためのヒントを探しているような気がします。図書館にあるたくさんの本の中には、私たちの悩みを解決する助けになる本が必ずあると、信じています。

(ゆうさ)